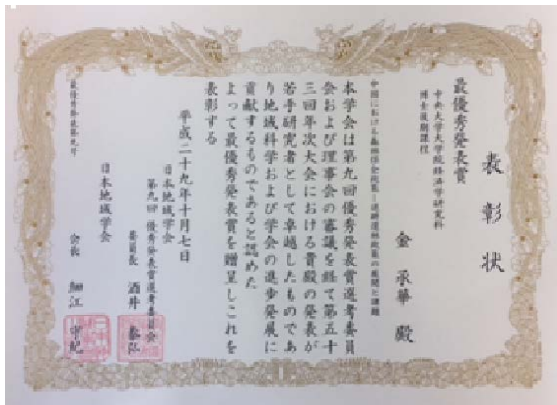


中央大学大学院経済学研究科 News

平成28年度日本地域学会 最優秀発表賞を受賞！！

日本地域学会 最優秀発表賞の受賞について、経済学研究科委員長 藪田雅弘先生が受賞者の博士課程3年の金承華氏にインタビューしました。

中央大学経済学研究科の博士課程3年の金承華氏（報告時は2年）が、去る2017年10月7日に開催された日本地域学会第54回大会の総会にて、最優秀発表者賞を受賞いたしました（右写真：表彰状と楯）。受賞対象は、2016年10月8-9日に新潟大学で開催された日本地域学会第53回年次大会における学会報告で、「中国における森林保全政策・退耕還林政策の展開課題」をテーマとする発表です。多くのセッション報告から優秀賞が選出され、その中から審査委員の投票によって最優秀の栄誉を得たわけです。受賞理由にあるように、最優秀発表賞は、全国大会報告でのプレゼンテーションに関して、卓越しかつ研究が地域科学、学会の進歩発展に貢献すると認められた賞です。近年、多くの学会においては、プレゼンテーションの技術と伝達の重要性が評価される傾向があり、こうした賞は、若い研究者が自己の研究報告の内容をわかりやすく説明できる能力の向上に資する役割があります。金承華氏の受賞を中央大学経済学研究科として共に喜びたいと思います。



(受賞の様子)

受賞に至るまでの金承華氏の工夫した点や苦労話などを、Q&A形式で伺います。

Q：発表のタイトルはなんですか。

A：「中国における森林保全政策—退耕還林政策の展開と課題」というタイトルについて発表をさせていただきました。研究自体は指導教授との共同研究をベースにしておりますが、中国における退耕還林政策に影響を与える要素は何かを明らかにするために、まず、退耕還林政策の背景と展開を明らかにし、政策の展開や現状などを下に、退耕還林政策の経済モデルを構築分析し、さらに、モデル分析結果に従って、マクロデータをもちいて計量分析を行いました。とくに、中国における退耕還林政策のガバナンスの展開過程や計量モデルにもとづくパネル分析は、私のアイデアにもとづくものです。

Q：論文を完成させ、学会でのプレゼンに至るまでの過程で、研究上で工夫した点はなんですか。

A：今回の報告論文が完成できるまでの過程では、多くの方々の助言をいただきました。特に指導教授（藪田教授 [公共政策]）には、ゼミ及び授業において大変お世話になりました。授業

以外の時間でも一対一で議論ができ、その中で、理論面だけではなく、実証面においても多くの有益な示唆をいただきました。また、研究室のメンバーからのご意見も参考にさせていただきました。研究会メンバーである院生、OBと活発な意見を交わしました。特に、研究室OBや院生との議論は、多くの視点からの新たな知見を得ることができ、とても有益でした。こうした討論の経験は、学会報告でも大いに役立ったと思います。

Q：そのほかに、とくに工夫した点や研究上の刺激を受けたことは。

A：私は、積極的にゼミ以外の研究会にも参加しています。学内では様々な分析手法を取得するために計量経済学の授業と森助教(2017年度より山口大学教育学部講師)の研究会に参加しています。また、研究分野の垣根を超えた若手研究者の研究会で報告を行ってきました。学外では、中国森林問題研究会にも参加し、中国研究の専門家と議論を重ねています。私は、このようなゼミ以外の研究会に参加することが重要だと考えています。なぜならば、「他流試合」を重ねることで、研究視野を広げることができ、また、自らの学問的基盤を形成することにも繋がるからです。

Q：とくに、学会発表について苦労したことはありますか。

A：論文の作成上データの収集や、計量分析の手法についていろいろ苦労しました。計量に関しては計量関連の授業でも指導をいただきましたが、やはり、院生間の自発的な研究会の意義が大きいと思います。多変量解析、共分散構造分析など、テキストや研究論文の動向を共有し、先端の応用状況を把握できました。最初の学会報告は2015年の日本応用経済学会が最初でしたが、そのときも、何度も練習をしていったのですが、がちがちと手が震えていたことを今も覚えています。報告機会を重ねることも重要ですが、やはり、日々の研究室での報告や討論、研究会への参加を積極的に行うことが重要だと思います。

います。とくに、学会の報告討論時間は縮減される傾向にあるので、時間配分はとても大事だと思います。何が言いたいのか、テーマはなにか、何がわかったのか、など聞く側の立場に立って話すことが重要であると考えています。

Q：最後に、今後の研究に向けた抱負を聞かせてください。

A：指導教授の下で、博士後期課程では、環境問題、特に森林環境保全について基礎から応用まで深く研究し、様々な政策提言ができる人物になることを目指しています。また、このような研究者になるためには、研究方法としての基礎である経済理論の知識、とくに、ミクロ動学、マクロ動学、環境・資源経済学、開発経済学、国際貿易論の修得が必要です。理論の基礎の上に、理論を実証するための計量経済学と統計学の研鑽をつみたいと考えています。以上の理論と実証分析を組み合わせ、公共政策の視点からの政策提言ができるようになりたいと考えています。

ありがとうございました。今後の研究の成就を祈念しています。

(聞き手 経済学研究科委員長 藪田雅弘)



(最優秀発表者賞の楯)